



客員教員 永原恵三

本日はご卒業おめでとうございます。

まずは、おひとりお一人の卒業に至るさまざまな道筋があったであろうことをご拝察いたしますに、並大抵のご努力ではなし得なかったことと思います。

通常の 4 年制大学であれば、それなりのガイドがあり、年次ごとにカリキュラムが組まれていて、4 年次にはそれなりの単位がたまっていて、ある意味では自動的に卒業できるシステムになっています。

しかし、放送大学はまったくその真逆に行くシステムです。何年間在学するも個人の裁量、1 年間に何単位取るかも個人に任せられます。また、ほとんどの方々が社会人との両立のなかで勉強をしてこられたと思います。すべて、ご自身の意思によって、学びの進め方や内容を決めてこられたことと思います。つまり、自立的な学びを全うされたこととなります。

世間的には、大学は勉強しなくてもよい、勉強するのはおかしい、という風潮があります。勉強をする方が少数派である、というのが現状のようです。大学は就職のため

の通過点である、というのも一つの考え方かもしれません。しかし、勉強をしたい学生が肩身の狭い思いをするのはどうだろうか、と思います。

そういう流れのなかで、放送大学で、ご自身の学問への熱意を貫いて、この日をお迎えになられたことは本当に意義のあることと思います。そして、この場に集われた皆さまの、にこやかな表情には、心から感動を覚えます。

私は最近、学問の価値を考えています。大学は何のためにあるのか、それはなにより学問をするためです。いろいろな学問がありますが、たとえば、私の専門である音楽学でも、さまざまな音楽の歴史や現在、諸民族の音楽やジェンダーの問題など、考えるべきことは無限にあります。大学で学問をするということは、たとえその専門の研究者にならずとも、研究の入口に立ってみて、その学問の深さを知るだけでも人生にとって大きな価値になると考えます。

放送大学は教養学部ですから、さまざまな専門分野の研究に触れて、豊かな教養を身につけることが一つの目的となります。本日、卒業をお迎えになる皆さんは、今の不透明な社会に必要な不可欠な教養人の一人として、しっかりと歩み出されることと思います。そして、学歌にもありますが、「学ぶ喜び」を生涯の友として、豊かな人生を過ごされることを願っております。

ご卒業、まことにおめでとうございました。